



北海道議会議員(札幌市中央区)

藤川まさし

道政・道議会だより

第10号

発行：藤川道政事務所

〒060-0063 札幌市中央区南3条西8丁目7-4 遠藤ビル4階

TEL (011)271-0788 / FAX (011)271-5004 / HP <http://www.fujikawa-masashi.com>



北海道をもっと元気に

第3回定例会

9月10日から10月4日まで

補正予算案は、一般会計に100億1500万円、特別会計に3億3000万円を追加し、合計103億5000万円となりました。補正予算案は、来年3月からの新千歳空港発着枠拡大関連で、合同企業説明会の開催やベトナム路線の誘致活動など緊急対策

として1050万円、胆振東部地震の被災3町が行う営農用水施設改修事業に11億4600万円、来年4月に開校する「道立北の森づくり専門学院」の設備整備で3億5500万円、知的障がい者養護学校校舎の狭隘化の解消を図るため、札幌や美唄、北見の特別支援学校の施設整備に6100万円などを計上しました。

決議・意見書は「日米貿易協定に

関する決議」など6本が採択されました。

「国会における憲法論議についての意見書」は自民党派が強引に提出。民主党派は反対しましたが、数の力での強硬可決となりました。

第4回定例会

11月26日から12月12日まで

補正予算案は、一般会計に61億円6900万円、特別会計に3億8000万円を追加し、合計64億7700万円となりました。これにより前回までの計上額と合わせ、一般会計は2兆8771億円、特別会計は1兆1462億円、合計で4兆233億円となりました。内容は、災害復旧事業に、今年の胆振東部地震、今年の台風8号、10号などで被害を受けた23市町48箇所道路・河川の改修費、農業用施設及び治山施設、土木施設の被害の復旧工事費など14億6900万円を計上。台風19号で大きな被害を受けた宮城県丸森町への応援経費として、道職員の派遣、コンテナ型トイレの設置などに3800万円を計上など。

意見書は「大学入学共通テストに関する意見書」など5本が採択されました。

「幌延深地層研究計画の延長提案をめぐって」

幌延深地層研究計画 について

日本原子力研究開発機構は8月2日、当初計画で「20年程度」としていた幌延深地層研究センター(幌延町)での研究期間を延長する計画を、道と幌延町に提出

しました。道と幌延町、機構は5回の確認会議を開き、新たに提出された計画の内容を審議しました。機構は引き続き研究開発が必要と考えられる課題を列挙した上で、「研究課題については、令和2年度以降、第3期及び第4期中長期目標期間を目的に取り組み、地層処分技術基盤の整備の完了が確認できれば、埋め戻しを行うことを具体的工程として示す」としており、これは第3期中長期計画に基づき「平成31年度末ま



日本原子力研究開発機構へ申し入れ

でに研究終了までの工程やその後の埋め戻しについて決定する」としてきた既定方針から大きく後退するものです。研究期間延長の根拠としているのが、「深地層の研究施設計画検討委員会」及び「地層処分研究開発・評価委員会」の評価結果

です。しかし、この評価をもって研究継続の根拠とし、唐突に第4期中長期目標期間を設定して、研究期間が曖昧なまま引き続き課題に取り組むことは、単に技術論に偏ったものであり、幌延町に深地層研究センターが設置された歴史的経過と社会的合意を尊重する点では、機構の態度は誠実とは言えません。12月6日、知事と幌延町長、機構理事長の三者会談が開催され、知事は単に、「協定は守りま

す」という答を機構から引き出しただけで、協定当事者の責任を果たしていません。12月10日の予算特別委員会知事総括質疑で知事は、研究期間の延長を容認しました。これに対し我が党派の議員は、容認の判断に至った経過や、なし崩し的に最終処分場になるのではないかとの懸念に対し

道民に説明するよう求めた。また9年間で研究終了と受け止めた根拠を質した。また、11日に行われた産炭地域振興・エネルギー問題調査特別委員会で、私は経済部長に新たな確認書など文書を取り交わすべきと質しましたが明確な答えはありませんでした。さらに、道民に対して十分な説明を行うよう求めたのに対し、説明化を開催するとの答えがありました。会派の中央要請で「機構」に対して直ちに埋め戻すよう申し入れを行いました。機構の山本理事からは放射性廃棄物を処分する施設にすることは全く考えていないとの発言がありました。



道内選出国會議員団と懇談・要請

「2020年度

国費予算への

提言・要望」

会派役員で、道内選出の国会議員と意見交換を行いながら、中央省庁へ要請行動を行いました。(12月13日)

- ① 国土交通省鉄道局次長にはJR北海道の路線維持について。
- ② 総務省自治財政局長には地方財政の充実、交付税の総額確保について。
- ③ 農林水産省には日米貿易協定による本道農林水産業への対策について。
- ④ 厚生労働省には地域医療構想については地域の実情を十分踏まえること。医師・看護師など医療を担う人材の確保と育成について。介護サービスを提供する人材の確保について。
- ⑤ 日本原子力研究開発機構には、幌延深地層研究計画の延長を撤回し直ちに埋め戻すこと。などを要望しました。

サンパウロ州議会にて カウエ・マリス議員と懇談



「北海道議会代表団 ブラジル・パラグアイ訪問報告」

訪問期間

2019年8月18日から28日

訪問の趣旨

南米諸国との交流は、戦前からの国策による海外移住に始まる長い歴史があり、これまで道では、北海道からの移住者が多いブラジル、パラグアイを周年記念式典の開催などに併せて訪問し、両国の開発と産業振興に力を注ぎ、今日の繁栄の基礎を築かれた移住者を慰問・激励してきました。

2019年は、ブラジルで北海道入道人移住100周年及び道人会創立80周年、パラグアイで北海道入道人移住80周年及びアルトパラナ（日系移住地の一つ）道人会創立55周年の節目を迎え、それぞれの地で記念式典が開催されることとなりました。この機会に、訪問団を派遣し、記念式典への出席及び移住功労者・高齢者への表彰等をはじめとした慰問・激励を行いました。

訪問地

- (1) パラグアイ・アスンシオン市、イグアス移住地
- (2) ブラジル・サンパウロ市

訪問団

北海道議会議員11名（議長令夫人含）、議会事務局3名（随行）

主な行事

- パラグアイ北海道入道人移住80周年・北海道入道人会創立55周年、パラグアイ北海道交流センター創立20周年記念式典・祝賀会
- イグアス日本語学校訪問、移住博物館見学（パラグアイ）
- アルトパラナ北海道入道人会創立55周年記念祝賀会。（パラグアイ）
- ブラジル日本移民開拓戦没者慰霊碑参拝・日本資料館視察
- ブラジル北海道入道人移住100周年及びブラジル北海道文化福祉協会創立80周年記念式典・祝賀会
- 安平町雪だるま除幕式
- サンパウロ州議会表敬 など



北海道・木育フェスタ 2019

第70回北海道植樹祭・育樹祭に参加しました。



～つなげよう 大切な森 この先へ～
と き

2019年10月19日(土) 10時～14時

と ころ

苫東・和みの森(苫小牧市)

主 催

北海道、林野庁北海道森林管理局
公益社団法人北海道森と緑の会

プログラム

アトラクション…………… 10:00～10:25

吹奏楽「苫小牧市民吹奏楽団」
YOSAKOI
「夜桜金魚とまこまいJAPAN with 風雪太鼓」

式典…………… 10:30～10:52

主催者挨拶
歓迎のあいさつ
来賓紹介
緑の宣言

植樹・育樹…………… 10:53～12:00

催事・協賛行事…………… 10:00～14:00

ミニテント村
月に一度は森づくり
*木工体験や木育ひろば、地元の特産販売など

第44回 全国育樹祭

2020年10月北海道で開催されます。

(1)お手入れ行事 10月3日(土)

苫小牧市：和みの森

内 容

皇族殿下による
樹木のお手入れ(枝打ち、施肥)
記念植樹など

(2)記念式典行事 10月4日(日)

札幌市：北海きたえーる

内 容

皇族殿下のお言葉、功労者の表彰
アトラクションなど
その他、併催行事・記念行事も行われます。

